

「バナナって食べても大丈夫？」

A 子さん「バナナにもカリウム 40 っていう放射性物質が含まれているって聞いたんだけど、食べても大丈夫なの？」

WAN 子「カリウム 40 は自然放射性物質で、人間の体内では一定の割合に保たれるようになっているのよ。だから、カリウム 40 の被曝によって病気になる確率が上がる可能性はないわけ。むしろ、カリウムは健康に必要なミネラルだから、腎臓に障害がない人はバナナを食べたほうがいいわよ」

A 子さん「そうなんだ。じゃあ、原発から出る放射性物質はどうして危険なの？」

WAN 子「原発事故で放出されるセシウム 137、134 やストロンチウム 90 などは人工の放射性物質で、日々の食事などで摂取し続けると内臓や筋肉、骨などに蓄積されて、体の内側から浴びる放射線量が增大していくの。すると DNA の損傷も増大して細胞のガン化リスクが高まってしまうのよ」

A 子さん「なるほど、自然放射性物質と人工放射性物質では、摂取したときに体に与える影響が違うんだね！」

WAN 子「そう。だから人工放射性物質に汚染された食品は、なるべく食べないほうがいいわよ」

参考文献

- 1) 崎山比早子・高木学校『母と子のための被ばく知識 原発事故から食品汚染まで』新水社
- 2) 医療問題研究会編『低線量・内部被ばくの危険性—その医学的根拠—』耕文社
- 3) 核戦争防止国際医師会議ドイツ支部著、松崎道幸監訳、矢ヶ崎克馬解題『チェルノブイリ原発事故がもたらしたこれだけの人体被害 科学的データは何を示している』合同出版
- 4) クリス・バズビー著、飯塚真紀子訳『封印された「放射能」の恐怖 フクシマ事故で何人がガンになるのか』講談社
- 5) 環境省『放射線による健康影響に関する統一した基礎資料（平成 26 年度版）』
- 6) 文部科学省『放射線等に関する副読本 中学校生徒用』

「原発といのちを考える会WAN」は、2011年11月に、W（和光）、A（朝霞）、N（練馬）の市民が、エネルギー政策や原子力発電の問題について、主体性を持って判断し行動していくことをめざして設立されました。

WAN さんには、毎月第 4 火曜日 10 時～12 時に中央公民館で開いています。時間内どなたでも出入り自由、お子さんづれ OK です。年会費 1000 円。

連絡先 048-463-9964（鈴木）/080-5684-8222（待鳥）



nomorefukushima nomorefukushima nomorefukushima

# 原発といのちを考える会 WAN ニュース 13

事務局 和光市南 2-1-12-401 Mail: nomorefukushima.wan@gmail.com 2018・8・1

## WAN 第 7 回定期総会報告

平成 30 年 5 月 26 日（土）13 時 30 分～中央公民館にて、WAN 第 7 回定期総会を開催しました。来賓には、松本和光市長、戸部教育長、東内教育部長を迎え、ご挨拶をいただきました。

出席者 10 名、委任状 12 名で会員 29 名

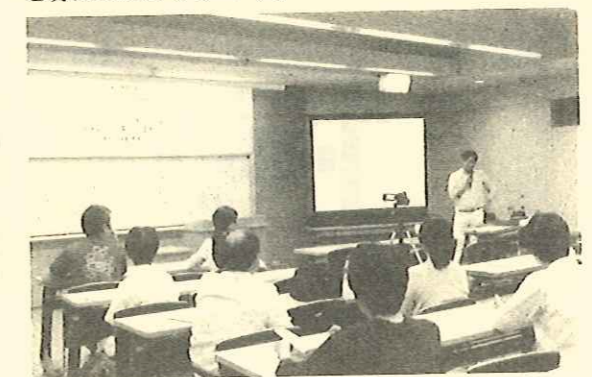
中 22 名の出席をもって総会は成立しました。総会に提出された議案（平成 29 年度活動報告、平成 29 年度会計報告、平成 30 年度役員候補案、平成 30 年度活動案、平成 30 年度予算案）は出席者承認のもと、すべて可決されました。

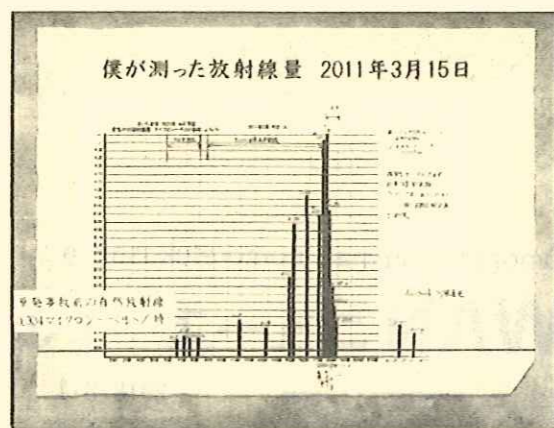
## 第 2 部 講演会「原発事故から 7 年—子どもたちの暮らしと健康—in 埼玉」

元さいたま市中学校教員（理科）の川根眞也さんによる講演が行われました。川根さんは、2011 年 3 月 14 日から身の回りの空間線量の測定を始め、「内部被ばくを考える市民研究会」を設立され、フェイスブックで内部被ばくについて、盛んに発信されています。今回の講演を簡単に報告しますが、以下のアドレスに全て UP してありますのでぜひご覧になってください (<http://www.radiationexposuresociety.com/archives/8507>)。

☆2011 年 3 月 11 日、川根さんは中学校の卒業式の日起こった地震・津波に加えて、福島原発のことを心配していました。校

長先生にも東工大のある教授から「福島第一原発が爆発した。雨に当たるな。子どもだけでなく、大人もだ。」と連絡がありました。そこで川根さんや他の職員の情報も聞き、3 月 19 日からの 3 連休は屋外での部活動を禁止したそうです。



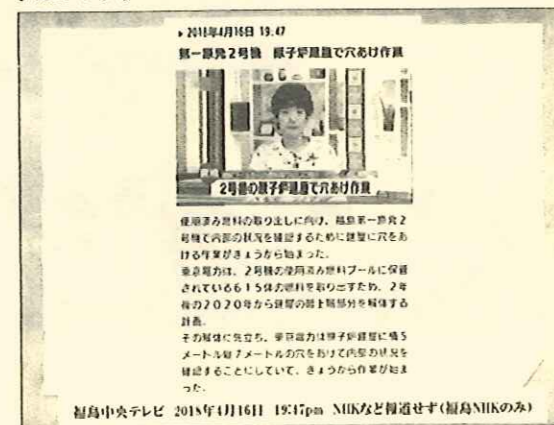


☆そして、前年2010年、放射線量計が送られてきていたのを思い出し、暗室から取り出して、測定を始めました。

その結果、3月15日の2号機の底抜け、4号機の爆発で放射能が関東地方にも流れ込み、事故前の自然放射線が0.034マイクロシーベルト/時が、1.41マイクロシーベルトまで上がったのがわかりました(ちなみに除染の基準値は0.23です)。それ以来、川根さんは濡れたガーゼを入れた布マスクと帽子で通勤するようになりました。

☆その後、川根さんは全国紙だけでなく、福島や原発所在地の新聞を取り寄せ、Web等々、積極的に情報収集に努め、官製発表に惑わされないようにし、常に線量計を携帯し、計測してこられました。

2018年4月16日、2号機建屋の壁に穴を開けたが、報道されるのは福島県だけという状況です。



☆東京新聞だけが避難指示解除された地域の山菜のセシウム汚染を報道しています。檜葉町、コシアブラ2万620Bq/kg、ワラビ662Bq/kg。

2012年8月、自家栽培の野菜を食べた福島県川俣町の男性は1万9507ベクレルを検出。仮に体重を60kgとすれば、体重あたり333Bq/kg。危険なレベルでした。そして、この男性は1年後に突然死されました。

☆甲状腺がんのことも心配です。原発事故の放射能が原因の甲状腺がんは悪性で、肺に転移することがあります。その結果、転移した時には、鉄格子の病院でアイソトープ治療をしなくてはならず、放射線ががんになった子どもが再び被ばくするという悲惨なことになっています。

☆2017年7月、3号機格納容器の燃料棒を取り出す作業のためか、放射能が多く放出されたようです。さいたま市でも、奇形ネコジャラシや奇形ミョウガが見つかっています。



☆子どもだけでなく、大人も土壌汚染の低い所での「保養」が必要です。三田茂先生は「東京全域に広がる異型リンパ球の増加」を報告しています。学校でも、外の部活動顧問の先生がノドがつぶれる例が出ています。グラウンドの側溝を掃除したり、雨でも練習することと関係があると思います。

3日連続して休みが取れたら、「保養」に行っています。汗とおしっこで体内のセシウムを排出します。

ベラルーシにあるような、「保養」のためのサナトリウムを日本でも作りたいと考えています。

☆具体的な放射線防護と内部被ばくを避けるために、右の資料を参考にしてください。

### 《Q&A》

<Q1>九州の空間線量率が多いのはなぜ？

<A1>川内原発、玄海原発の影響があるのでは？しかし、熊本の阿蘇の土壌は20Bq/kg前後で、阿蘇の豚肉、牛肉は安全です。

<Q2>関東で保養にいいところは？

<A2>個人的には土壌が10Bq/kg程度の山梨県石和温泉。海外ならニュージーランドに行きました。ところで、学者は放射能について良くわかっていて、2011年3月11日、東大物理学研究室は、窓に目張りをして換気扇を止めたそうです。

<Q3>山梨の水を買っていますが、どこの水がいいですか？

<A3>水道水の塩素の発がん性が問題。微生物できれいにするのがいいが、お金がかからないのでゼネコンの儲けが出ないため普及していない。また、煮沸消毒しているか確認してください。私はフィルターでろ過している郡上の天然水です。地下水系は大丈夫、富士山の地下水など。

### 川根の放射線防護(1)

- 週2回、九州産、北海道産の野菜を買い物。豚肉はスーパーで鹿児島黒豚、鶏肉は青森県産。魚は長崎県や山口県、石川県などの地付のもの。
- 学校給食を食べず、牛乳を飲まず、お弁当。逆浸透膜浄水器で調理。水筒にコーヒー入れて持参。学校の水道水は飲まない。
- 外食はできる限り、週1回に。食材は選べないので。
- 週1回ほど、スーパー銭湯で、チムジルバン(岩盤浴)に。

### 川根の放射線防護(2)

- 外出時は濡れマスク。
- 外食でも、きのこ、川魚、栗、レンコンは食べない。
- 帰宅後はすぐにシャワーを浴び、顔を洗う。
- シャワーヘッドに、天然ゼオライト+活性炭および人工ゼオライトのフィルターを2016年11月から設置。放射性セシウムを除去。

- 放射性物質は微量でも有害です。
- 「100ミリシーベルトまで安全」はでたらめです。
- 「福島 食べて応援」は間違いです。
- 人工放射能(セシウム134、137やストロンチウム90)は、自然放射能カリウム40とは違い、からだの中で濃縮し、蓄積します。
- きのこ、山菜、川魚は産地を調べないと危険です。
- 政府、テレビ、新聞が真実を報道するとは限りません。自分から情報をとりに行くことがもっとも大事な放射線防護です。

### 内部被ばくを避けるために～関東編～

- 食材の産地に気をつけて  
一福島・東北の農作物、水産物が関西に、関西の野菜、魚が関東に。  
一太平洋側の魚、東海側の魚、鱈や赤木大根などの東日本の魚や河川の淡水魚、東北・関東のタケノコ、栗、さつまいも、レンコン、きのこや山菜は産地がわかるものを選んで。
- 関東の子どもたちの保養先を見つけましょう。積極的に子どもたちを保養に、自分も一緒に。
- 被ばくしたと思ったら積極的に保養に行きましょう。
- 被災地の支援は「食べて応援」以外で。被災地の子どもや大人が放射能の少ない場所へ保養に行けるよう支援を。関東はダメ。
- 放射能汚染地帯の実態をよく学びましょう。
- 原発の再稼働を止めましょう！